

公益財団法人

九州先端科学技術研究所

Institute of Systems,
Information Technologies
and Nanotechnologies



ISIT

地域に開かれた研究所をめざして

ISITは、アジア太平洋を中心とした国際的な産学官の協調の下で、システム情報技術やナノテクノロジーなどの先端科学技術並びに関連する科学技術分野において、中長期的、戦略的なテーマに関する研究開発、社会実装／実証事業を行い、さらに産学官連携による様々な事業・プロジェクトの構築やコンサルティング、人材育成、交流・協力など、各種支援活動を行うなど、技術移転や技術交流の架け橋となり、広く関連産業や地域経済の発展に寄与していきます。



ごあいさつ



理事長 貫 正義



研究所長 山田 淳

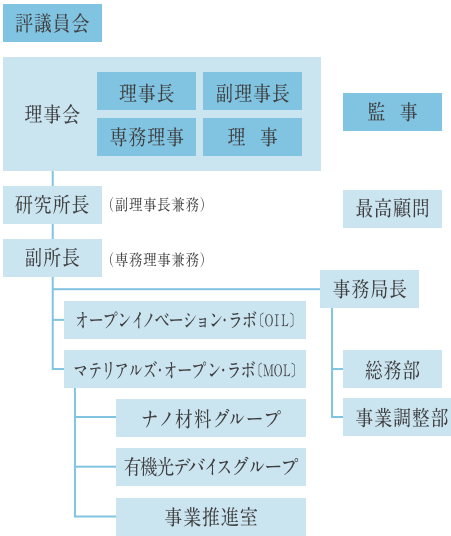
ISITは、我が国はもとより世界的な潮流として情報革命ともいわれる情報ネットワーク化社会へ向けた本格的なシフトがはじまろうとしていた1995年、福岡を拠点に、時代のリーディング産業としての情報関連産業の発展に寄与すべく設立され、システム情報技術分野を通じ、地域産業の振興に先導的役割を果たしてまいりました。

2008年には、これまでの経験をより広く科学技術分野に活用していくため、新たにナノテクノロジーなどの先端科学技術分野を加え、これまで培ってきた産学官連携の経験を活かし、地域における新産業の育成支援にも取り組んでまいりました。

2013年には、これまでISITが取り組んできた活動の高い公益性が認められ、内閣総理大臣より公益認定を受け、4月から公益財団法人へと新たな一歩を踏み出しました。

今後、ISITへの期待・役割は、ますます大きくなるものと考えています。地域における関連産業の発展のため、積極的な事業展開を図り、活力ある地域社会の実現に向け、なお一層の貢献に力を尽くしてまいりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力を心よりお願いいたします。

組織図（2025年4月）



概要

名 称 / 公益財団法人 九州先端科学技術研究所
Institute of Systems, Information
Technologies and Nanotechnologies (ISIT)
設 立 / 1995年12月25日 設立
経済産業大臣(旧通商産業大臣)許可
2013年4月1日 公益財団法人に移行
内閣総理大臣認定
基 本 財 産 / 3億円(うち福岡市から出捐金2.5億円)
賛 助 会 員 / 法人会員52社、個人会員13名(2025年9月現在)
研究機関番号等 / 科学研究費助成事業研究機関 研究機関番号 87103
e-Rad 研究機関コード 6800498931

沿革

1993年 6月 「福岡SRPにおける研究開発のあり方に関する調査」報告
(九州大学ワーキンググループ)
1995年 3月 福岡SRPにおける中核的研究所設立検討委員会 設置
1995年 12月 財団法人 九州システム情報技術研究所設立
2003年 10月 科学研究費補助金研究機関指定(機関番号取得)
2008年 4月 財団法人 九州先端科学技術研究所に改組(ナノテク研究室 新設)
2012年 4月 有機光デバイス研究室 新設
2013年 4月 公益財団法人に移行
2017年 4月 オープンイノベーション・ラボ(OIL)設置(IT系研究室を再編)
2017年 6月 産学官共創推進室 新設
2018年 4月 マテリアルズ・オープン・ラボ(MOL)設置(NT系研究室を再編)

事業概要

新たな社会ニーズに応える6つの事業



研究開発／社会実装・実証事業

独自の研究や社会実装・実証実験の取組みを行っています。創成された研究成果は、プロジェクト型研究や受託研究・共同研究などを通して地域企業や地域社会に還元していきます。

オープンイノベーション・ラボ (Open Innovation Lab/OIL)

P3参照

社会に貢献する最先端IT技術を活用した社会実装、社会実証を産学官連携で推進

- ・オープンイノベーションのハブ
- ・社会実装、社会実証を推進実行
- ・産業界での商品化・産業化への橋渡し



福岡SRPセンタービル

マテリアルズ・オープン・ラボ (Materials Open Lab/MOL)

P5参照

グリーン・トランスフォーメーション(GX)に資するナノ材料、光機能素子・デバイスの創製、ならびに評価・解析技術開発
＜ナノ材料グループ＞ 金属ナノ材料より構成される光機能素子の創製に向けた基盤技術の開発
＜有機光デバイスグループ＞ 次世代有機半導体光デバイスの創製に向けた革新的な共通基盤技術の開発
＜事業推進室＞ よろず相談「分析NEXT」を核とする産学官連携による企業等の研究開発支援



福岡市産学連携交流センター(FzS)



コンサルティング事業

企業や自治体などが抱える、システム情報技術、ナノテクノロジー等の分野における技術的な課題等に関する相談に応じ、解決に向けた支援などのコンサルティングを行っています。

また相談内容に応じて、受託・共同研究や産学・産産のマッチング、公募型制度の活用(提案)など、課題解決に向けた具体的な支援を行っています。



産学官連携による新産業・新事業創出事業

システム情報技術、ナノテクノロジー、有機光デバイス、カーエレクトロニクス、医療・バイオなどの幅広い分野において、人的ネットワークの形成、関連機関との連携、産学のマッチング支援などを行い、新産業・新事業の創出支援を目指しています。



情報収集／提供事業

- 市民向けセミナー等の開催
- 活動レポートの発行
- Web・メールマガジンによる情報提供
- 先端的な技術等に関する情報(書籍、論文資料等)の収集



市民向けセミナー



活動レポート What IS IT?



人材育成事業

地域企業の技術者等の研究開発力向上のためセミナーを開催するとともに、企業や海外から技術者の受け入れ等を行っています。また、小中学生等を対象としたものづくり教育の支援等を行っています。



交流・協力事業

システム情報技術、ナノテクノロジーなど最新の先端科学技術に関する講演会をさまざまな形態で行っています。国内外の研究者による講演会や産学官連携による研究会の開催など、時宜に即した各種イベントを実施し、「人と情報の輪」が広がっています。

オープンイノベーション・ラボの紹介

ディレクター 荒牧 敬次(副所長兼務)

当ラボは、これまで培ったテクノロジーや九州における大学等の学術研究機関のシーズを活かし、社会実装、社会実証を産学官連携で推進します。

また、九州大学および産業技術総合研究所(産総研)等と連携・協力して、九州地域の民間企業が抱える課題に対して解決を図るほか、AI・ビッグデータ・IoT等に関連した研究開発なども共同で実施していきます。



〈テーマ〉

社会に貢献する最先端IT技術を活用した社会実装、
社会実証を産学官連携で推進

1

オープンイノベーションの ハブ (Hub)

オープンイノベーションによる課題解決の場として、九州地域の経済産業振興に資する役割を担います。これにより、産業界の課題やニーズに対応することで、九州地域におけるスタートアップの支援や地方創生の実現を支援します。

2

社会実装、 社会実証を推進実行 (DoTank)

DoTankとして、社会実装、社会実証実験を産学官連携で推進実行します。これにより、優れた発明・発見を実社会での実装や実証に供し、社会において、競争力のある価値の創造につながるイノベーションの創出を支援します。

3

産業界での商品化・ 産業化への橋渡し (Bridge Building)

優れた発明・発見から産業界での商品化・産業化への橋渡しを行います。これにより、豊かな社会・持続可能な社会の実現に貢献します。

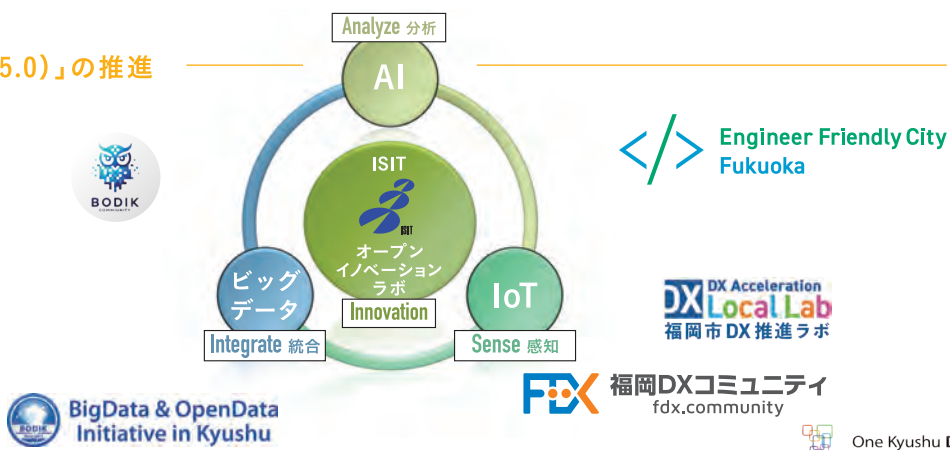
〈具体的な取組み〉

実証分野

AI、IoT、ビッグデータ&オープンデータ、ブロックチェーン、サイバーセキュリティ、ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ(VR)／拡張現実感(AR)など、新たなビジネス機会を生むイノベーションに対応します。

「超スマート社会(Society 5.0)」の推進

「収集」「蓄積」「選択」「分析」「活用」といった一連の情報の流れを構築し、企業活動の高度化、そしてスマートシティの実現に取り組みます。





DX事業

◎福岡DXコミュニティ



福岡DXコミュニティは、ISIT・福岡市・特定非営利活動法人QUESTを核とし、AI・IoTおよびDXに興味を持つ企業、組織、個人、大学等、産学官が連携するコミュニティです。

企業間のマッチングのほか、各種セミナーやワークショップ、交流会を定期的の実施し、課題解決の事例や知見を共有することで地域企業の技術力向上や新規ビジネスの創出を支援しています。



<https://fdx.mommunity/>

◎One Kyushu DX



One Kyushu DX

One Kyushu DXは、DXに挑戦する地域企業の経営者やDX推進担当者など、DXに関心のある個人が集まるオープンなコミュニティです。

所属や立場を越えてつながり、仲間とノウハウを共有し課題を克服することで、地域企業全体でDXを推進する「エコシステム」の構築を目指しています。



<https://okdx.jp/>



交流会



ワークショップ

BODIK事業

◎BODIK (ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州)



オープンイノベーション・ラボでは、自治体や市民、企業が誰でも簡単にデータを活用できる社会の実現を目指し、「BODIK事業」を展開しています。

・BODIK ODCS / ODM

全国の自治体がオープンデータを公開できるカタログサイトを無償提供。300を超える自治体を利用、12万件以上のデータが登録されています。

・BODIKAPI / ODGW

避難所・AED・公共施設など共通フォーマットのデータをAPIで提供し、都市OSやデータ連携基盤との自動同期も実現。自治体の作業負担を軽減します。

・BODIK Utility & エディタ

自治体職員向けに、誰でも効率的にオープンデータを作成できる支援ツールを無償で提供。実務に直結した利便性を提供しています。

・BODIKコミュニティ

データ公開側と活用側をつなぐ場として、勉強会やセミナー、定例の「BODIK コミュニティLive!」などを開催。

公開と利活用の善循環を生み出します。

これらの活動を通して、人口減少や社会課題の解決に向け、オープンデータの基盤整備から活用までを一貫して支援し、地域の持続可能な未来づくりに貢献しています。



<https://www.bodik.jp/>

EFC事業

◎EFC (エンジニアフレンドリーシティ福岡)



「エンジニアフレンドリーシティ福岡」では「エンジニアが集まる、活躍する、成長する街、福岡」を目指して、エンジニアや企業と協力し、スキルアップや活躍できる機会を増やすなどエンジニアを取り巻く環境の充実に取り組んでいます。

・ハッカソン・コンテスト

新たなサービスや製品、時代をリードするプロトタイプなどを生み出すエンジニアの育成・発掘を目的に、ハッカソン・コンテスト「Engineer Driven Day」を実施しています。



・エンジニアフレンドリーシティ福岡アワード

福岡のエンジニアコミュニティ文化の発展に貢献する「エンジニアコミュニティ」や、エンジニアを取り巻く環境の充実に取り組む「企業」、優れたプロダクトを開発したチームを表彰する「エンジニアフレンドリーシティ福岡アワード」を実施しています。



<https://efc.fukuoka.jp/>



<https://efc.fukuoka.jp/edd/>



<https://efc.fukuoka.jp/awardsp/>

マテリアルズ・オープン・ラボの紹介

ディレクター 山田 淳(研究所長兼務)

当ラボは、光科学、材料科学、分子組織化学分野で培ってきた確かな研究力と豊富な経験を駆使して、有機材料、無機材料、プラズモン金属ナノ材料を構成要素とする新奇光機能素子・デバイスの創生、既存素子・デバイスの性能向上に向けた独自の開発研究に取り組めます。さらに、近年重要な課題となっているグリーン・ライフ分野において産業界のニーズと大学等研究機関のシーズを繋ぐべく、産学官連携の下で開発研究を推進します。

また、九州大学および福岡市産学連携交流センターに集結している大型分析機器を最大限に活用し、当該分野の企業が抱える課題に対応するための相談窓口を設け、課題解決にむけた分析・解析の支援を行います。



〈テーマ〉

グリーン・トランスフォーメーション(GX)に資する

ナノ材料、光機能素子・デバイスの創製、ならびに評価・解析技術開発

1

金属ナノ材料より構成される
光機能素子の創製に向けた
基盤技術の開発

ナノ材料グループ



研究グループ長
山田 淳

可視～近赤外域でプラズモン共鳴吸収を発現する金・銀ナノ粒子に表面化学修飾を施し、ナノ粒子の組織化やフィルム化を可能にする条件を確立し、新奇光エネルギー変換素子、光センシング素子、有機材料とプラズモンナノ材料のコラボレーションによる革新的光デバイスの創出を目指します。

2

次世代有機半導体光
デバイスの創製に向けた
革新的な共通基盤技術の開発

有機光デバイスグループ



研究グループ長
八尋 正幸

企業や大学等研究機関と連携し、有機ELをはじめ、有機太陽電池、有機トランジスタ、有機/無機ペロブスカイト太陽電池などの有機光エレクトロニクスデバイスの研究開発に取り組んでいます。その取り組みの中で、これまでの概念にとらわれないデバイス作製技術や評価技術の革新的な共通基盤技術を確立し、社会に必要とされる新しいグリーンテクノロジーデバイスの創製を福岡で実現します。

3

よろず相談「分析NEXT」を
核とする産学官連携による
企業等の研究開発支援

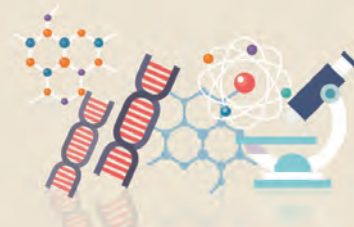
事業推進室



室長
山本 竜広

高度な分析機器と多様な分野の専門技術を活用することで、地域企業・スタートアップ等の製品・研究開発における課題解決の支援を行い、新商品・新サービスの創出を推進します。

また、幅広い分野の技術的課題に対応するため、大学等研究機関・支援機関等との連携ネットワークを強化・推進します。



〈具体的な取組み〉

ナノ材料グループ

(1) ナノ粒子の力学特性評価法開発とデバイス化に向けた基盤技術開発

- ◎ナノ粒子含有フィルム材料の諸特性評価技術の開発
- ◎材料内ナノ粒子の力学特性評価のための基盤技術開発
- ◎分析NEXTにおける分析・解析技術への応用展開

(2) 次世代モビリティ指向材料の接着界面解析技術確立と産学連携強化

- ◎科学技術振興機構未来社会創造事業
「界面マルチスケール4次元解析による革新的接着技術の構築」プロジェクトの分担実施
- ◎電子顕微鏡を用いた材料接着界面の構造評価法の構築と技術支援
- ◎九州大学次世代接着技術研究センターとの連携による、
九大学研都市地区における接着技術研究開発の産学連携拠点化への貢献

有機光デバイスグループ

(1) 高性能・高信頼性有機ELデバイスの製作技術および評価技術の構築

- ◎企業や有機光エレクトロニクス実用化開発センター(i³-opera)と連携した
フレキシブル有機作製プロセス開発、面封止技術開発と評価技術の確立
- ◎高効率、高耐久性、耐熱性を有する有機ELの開発と標準化
- ◎大学発ベンチャーの研究開発支援

(2) 次世代グリーンテクノロジーデバイスの創製と高性能化

- ◎九州大学と連携した温度差不要の環境熱電変換デバイスの開発
(M.Yahiro, C.Adachi et al., Nat. Commun., 15:8115(2024))
- ◎有機/無機ペロブスカイト太陽電池の高性能化と高再現性を両立した作製・評価技術の開発

(3) 有機光エレクトロニクス研究開発拠点の形成

- ◎九大学研都市地区における次世代の科学技術を支える R&D 拠点形成「分子システムバレー」の形成

事業推進室

(1) 分析・解析よろず相談事業『分析NEXT』の推進

- ◎ISIT・福岡市・九州大学・九州大学学術研究都市推進機構(OPACK)の四者連携による
地域企業・スタートアップ等の技術的課題解決支援による新商品・新サービスの創出支援

(2) 地域企業等の研究開発支援の推進

- ◎企業・スタートアップ等の先端科学技術の啓発・技術講習・交流を促進することによる地域企業等の研究開発支援

(3) 研究・分析機関等との連携の推進

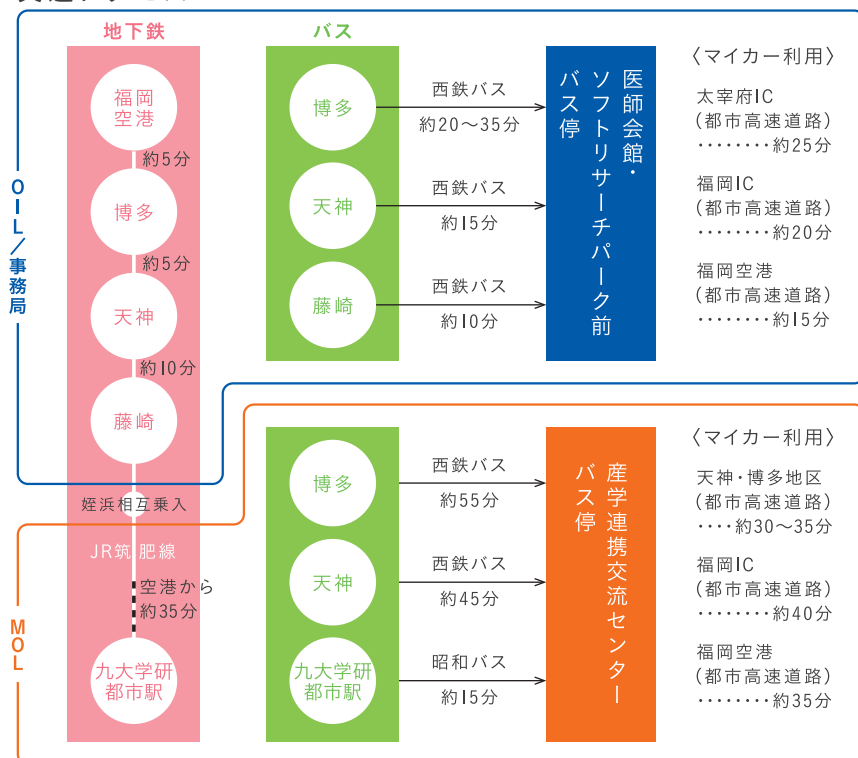
- ◎福岡市産学連携交流センター(FiaS)を中核とするナノ分析・解析拠点形成の推進

(4) グリーン・トランスフォーメーション(GX)事業の推進

- ◎サーキュラーエコノミー・カーボンニュートラルに関連する技術相談・対応支援



交通アクセス



賛助会員募集

当研究所の設立目的に賛同して頂ける方(団体、企業、個人等)は、是非ご加入ください。

会員特典

- 1 ISIT主催のセミナー・交流会を優先的にご案内
- 2 コンサルティング(技術相談等)の初期相談が無料
- 3 ホームページで会員紹介(リンク等)
- 4 その他活動報告書や活動レポートの送付

詳細はISIT総務部まで

TEL: 092-852-3450

FAX: 092-852-3455

e-mail: isit-soumu@isit.or.jp

<https://www.isit.or.jp/supporter/>



公益財団法人 九州先端科学技術研究所

Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies (ISIT)

● オープンイノベーション・ラボ(OIL)／事務局

〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1番22号

福岡SRPセンタービル5階

TEL: 092-852-3450(代表) / FAX: 092-852-3455

● マテリアルズ・オープン・ラボ(MOL)

〒819-0388 福岡市西区九大新町4-1

福岡市産学連携交流センター(FiaS)内

TEL: 092-805-3810(代表) / FAX: 092-805-3814

URL <https://www.isit.or.jp>

